



1. 様似町と日高山脈襟裳十勝国立公園

様似町は、北海道日高地方の南部に位置し、四季折々に美しい表情を見せる日高山脈の雄大な山容と、奇岩・断崖の続く海岸線が特徴。

「アポイ岳」は世界でも類を見ない新鮮な「かんらん岩」からなる山。特殊な土壌と気候条件から固有の高山植物群落が形成されており、ユネスコ世界ジオパークに認定されている。

様似町は、令和4年9月にゼロカーボンシティを表明。



奇岩とアポイ岳

2. ゼロカーボンパークに向けた様似町と地域の取組

① 自然資源・再生燃料の活用

土地面積の8割以上を森林が占める日高地域の中でも、様似町はとりわけ森林の占める割合が大きい(9割以上)町である。

日高振興局南部地域では、地元森林組合を中心に「日高地域木質バイオマス資源利用推進協議会」を設立し、森林整備で発生する未利用材から木質バイオマス燃料を生産しており、近隣町を含めて発電用燃料・暖房用燃料として活用されている。原料となる未利用材は、可能な限り集荷範囲を近傍の国立公園とその周辺地域からの調達を基本とすることで輸送距離の短縮を図る。必要に応じて効率的な集荷拠点を適切に配置し、エネルギー負荷の低減に配慮した集荷体制を構築する。



夏の幌満峡



アポイ山荘



2. ゼロカーボンパークに向けた様似町と地域の取組

②CO2を排出しない自然体験プログラムの推進

町立図書館、アポイ岳ジオパークビジターセンター、郷土館が連携して開催する「カン×カン講座」では、フットパスやE-MTBを活用してジオパークを巡る体験プログラムを提案。環境負荷に配慮しながら町の歴史と自然を学ぶ機会を提供している。

町主催のイベント「HIDAKA TRAIL DAYS」では、E-MTBの試乗体験やロングトレイルなど自動車を使わない自然体験の魅力を伝え、普及啓発を行っている。また、入場料の一部をアポイ岳の環境保全活動の支援に活用している。



E-MTBを活用した観光

③寄附金の活用

条例に基づく「みんなのアポイ基金」を活用し、登山道の維持管理や携帯トイレブースの設置などの自然保護活動を官民連携で実施している。



HIDAKA TRAIL DAYS

3. 環境省における対応

ゼロカーボンシティ支援に活用しているエネルギー対策特別会計予算及び自然公園等事業費等の既存予算を活用して支援する他、北海道地方環境事務所が連携をとりながら伴走支援を行い、ゼロカーボンパークの取組を後押し。